



## 生ましめんかな

栗原貞子

栗原貞子

こわれたビルデングの地下室の夜であった。  
 原子爆弾の負傷者達は  
 ローソク一本ない暗い地下室を  
 うずめていっぱいだった。  
 生ぐさい血の匂い、死臭、汗くさい人いきれ、うめき声  
 その中から不思議な声がきこえて来た。  
 「赤ん坊が生まれる」と云うのだ。  
 この地下の地獄の底のような地下室で今、若い女が  
 産気づいているのだ。  
 マッチ一本ないくらがりでどうしたらいいのだろう  
 人々は自分の痛みを忘れて気づかった。  
 と、「私が産婆です、私が生ませましょう」と云ったのは  
 さっきまでうめいていた重傷者だ。  
 かくてくらがりの地獄の底で新しい生命は生まれた。  
 かくてあかつきを待たず産婆は血まみれのまま死んだ。

生ましめんかな  
 生ましめんかな  
 己が命捨つとも

詩人栗原貞子さんの、実話に基づいた有名な詩「生ましめんかな」を今田幸子さんが紹介して下さいました。今田幸子さんは、数年前お嬢さんの住んでおられる神戸に移って来られ、西神ニュータウンにお住まいです。

長年書道に打ち込んでおられ、文化センター書道講座でご活躍されています。文化センターに掲示された「人間をかえせ」の掛け軸を見た9条の会会員の多くが感動し、お会いしたいという願いがかない、ご本人にお話を聞くことができました。

5月に行われた17回記念のつどい「被爆ピアノコンサート」の会場に飾らせていただき、参加された皆さんに紹介いたしました。今年も8月6日、9日を迎えました。「人間をかえせ」「生ましめんかな」に触れ、平和憲法を次世代に渡したい思いを強くするものです。

(竹の台 TH)

